

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671200255		
法人名	有限会社 敬友会		
事業所名	グループホーム花乃苑石井		
所在地	徳島県名西郡石井町藍畑字東覚円70-3		
自己評価作成日	平成24年1月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るさと清潔感のある環境を大切にしている。全職員が利用者一人ひとりをよく理解し温かみのあるケアを心がけている。また、利用者や家族の要望や意見を聞く時間を多く持ち、よりニーズに合ったケアに取り組み家族の方に安心して利用者を任せていただいている。利用者それぞれが自分の役割を持ち、毎日実行することによって生き甲斐と誇りを持てるようにしている。事業所での生活の様子をホーム便りや生活状況記録で家族に毎月知らせるようにし、利用者の様子を家でいながら身近で感じられるようにしている。夜はパジャマ、日中は衣服と必ず全員着替えていただき、昼夜の区別がつくようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、静かな田園地帯に位置している。ぬくもりの感じられる木造の建物となっており、周囲には季節の花々を植えている。利用者一人ひとりが地域のなかで自分らしく過ごすことができるよう支援している。笑顔が絶えることのない我が家のような事業所を目指して、日ごろの支援に取り組んでいる。また、食事を大切な活動のひとつとして捉えている。運営推進会議の際に出された意見や要望等を職員間で検討している。夏祭りなどを企画し、地域住民との交流や事業所の周知等に取り組んでいる。また、外部評価を通して自己研鑽を重ね、サービスの質の向上に取り組んでいる。災害に備え、地域との協力体制を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今までの理念をもとに職員間で話しあい、新しく理念を作り上げている。苑内の目に付く場所に掲げ、常に意識して、ケアに携わっていくようにしている。	全職員で見直した理念を掲げている。毎朝の申し送りやミーティング時に確認し、日ごろのケアに反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	花乃苑夏祭りや避難訓練の際に地域の方の多数の参加があり、盛大に行っている。また、地元の小学校児童や幼稚園児の来訪や表現会の招待等により、深い交流関係ができています。	日ごろから、地域の人たちと挨拶を交わしている。野菜等の差し入れをもらうこともあり、顔馴染みの関係を構築している。また、地域の清掃活動に参加している。秋祭では神輿の来訪がある。民生委員等の協力を得て夏祭りを開催し、積極的に地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席いただける民生委員や町役場の担当にケアの拠点として事業所にできることはないか、役立つことはないかということを常に伝えている。また、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、実際のサービスと取り組み状況について報告を行っている。利用者家族の要望や民生委員の意見について職員間で話しあい、常にサービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議には、地域の民生委員の参加があり、出された意見や要望等をサービスの質の向上に反映している。2か月に1回の開催に向けて取り組んでいるが、直近では定期的な開催に至っていない。	運営推進会議の目的や意義について再度理解を深め、今後も2か月に1回の開催に向けて取り組まれない。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の担当者とは運営推進会議や相談がある時、認定更新時等に深く関わっている。また、様々な問題解決に向けて一緒に取り組んでいる。	積極的に町担当者を訪問している。各種会議等の機会を活用し、相談や助言が得られる関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日ごろの申し送り等で身体拘束についてに触れ、共有意識を持つようになっている。玄関の施錠はせず、さりげなく声をかけたり一緒に歩いていく等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えている。	職員は、身体拘束をしないケアのあり方について理解している。利用者一人ひとりの些細な動作を把握して見守りを徹底し、本人の自由な暮らしを支える支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞等で高齢者虐待の記事が掲載された時等、反面教師として職員間で話し合いの機会を持っている。事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用している方がいるため、機会あるごとに職員への説明を行い、理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、家族の不安や疑問点を充分理解し、納得されるように時間をとって丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者が気軽に意見や不満を言えるような雰囲気づくりをしている。運営推進会議においても家族に積極的に意見を出してもらい、サービスに反映している。	日ごろの利用者との暮らしのなかで意向等の把握に努めている。また、家族の来訪時や電話等で意見や要望を聞くよう努めている。出された意見等は、毎朝のミーティング時に検討して運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りの時間を多く取り、積極的な意見交換を行い、日ごろからコミュニケーションを図るようにしている。職員の気づきやアイデアを運営に取り入れるようにしている。	管理者は、日ごろから職員のアイデアや気づきを大切に捉えている。また、年2回、職員に業務改善アンケートを行って、出された意見等を運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場で起きている状況や変化を知り、職員が安心して働ける環境をつくっている。健康診断の実施など職員の心身の健康を保つための配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の確保や向上に向け、研修を受ける機会を設けている。資格取得についても、働きながら勉強できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一サービスの他事業所と相互研修を行い、親睦を深めるとともに良いところを吸収し、サービスの質を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で本人と向きあい、本人の思いや不安を受けとめ把握するように努めている。信頼を得ることによって、長い付き合いに繋げて行くようにしたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の思いは必ずしも一致するとは限らないが、今まで家族が体験してきた苦勞を理解し、困っていることやニーズが何なのか、話を十分聞くことによって関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前の段階で馴染みの関係ができるように、本人の家を訪ね、短時間でも話をして過ごすような工夫をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩者であるという考えを職員の誰もが持つようにしている。昔話を聞いたり昔ながらの生活の工夫を教えてもらったりと「共に過ごし、学び、支え合う」関係をつくるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られる家族には、常に利用者の生活状況を報告している。遠方の家族にも、毎月の新聞便りにて本人の様子を知らせており、とても喜ばれている。家族の気持ちになって支援するように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔住んでいた地域の友人が時々遊びに来てくれている。馴染みの美容院を何度も訪れている人もいる。家族とともに墓参りを欠かさずに行かされている人もいる。	利用者一人ひとりの馴染みの美容院やお墓参りに出かけている。また、知人や家族の来訪が少ない方には、電話や手紙等の支援を行って、馴染みの人や場所との関係が途切れることのないよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全職員が利用者同士の関係を把握し、うまくいくように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調が悪化し退居された方の家族が何度も事業所に来られ、本人の現在の状況等を知らせてくれている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が自分らしく暮らしていくためには、どのようにすればよいかということを念頭に置き、思いや希望、意向を十分理解し把握しようと努めている。	利用者ごとに担当職員を配置している。日ごろの利用者との関わりのなかで、些細な動作や表情等から希望や意向の把握に努めている。また、家族からも情報を得よう努めている。把握した情報は、職員間で共有化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、親類から情報をいただき、本人の生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できないことよりできることに注目し、より自信を持って暮らしていけるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日ごろの関わりの中で意見や希望を聞き、介護計画に反映している。また、毎日職員間でケアのあり方について検討する時間を設け、より良い意見やアイデアを反映した介護計画を立てている。	毎朝のミーティング時に、職員間で意見交換やモニタリングを行っている。また、月1回、全職員で会議を開催し、現状に応じた介護計画書となるよう見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、毎日の生活状況がすべて分かるように記入している。職員間で情報を共有しながら、日ごろのケアと見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに応じたサービスを提供している。リハビリが必要な方は訪問リハビリを利用していただき、福祉用具レンタルも本人に必要と思われるサービスを利用できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターや民生委員が参加されており、周辺情報や情報交換、協力関係を築いている。又、地域の小学校・幼稚園による定期的な訪問やボランティアの訪問が楽しみのひとつとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医の訪問が週2回以上あり、本人及び家族の安心を得ている。また、希望により症状に応じた病院への受診も行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関とは、24時間の連携体制を構築している。必要に応じ歯科の往診も支援している。地域の医療関係者とも連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化の早期発見に努め、いち早く担当医に相談し適切な治療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際、病院関係者や家族と密な連絡を取り、回復状況など情報交換をしながら退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、早くから本人・家族とも話し合いを行い、苑で対応できる最大のケアについて説明をし担当医との協力体制も踏まえて、家族が安心出来るような支援に取り組んでいる。	本人や家族に、事業所の現状や対応力に関する十分な説明を行って方針の共有化に努めている。月1回、かかりつけ医へ利用者の状況報告を行っている。週2回の協力医療機関の往診時には、利用者の状態変化に応じて話しあっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作り、職員間に周知徹底を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。春の訓練は地域の方々の参加、協力を得ながら避難訓練を行っており、いざというときの協力体制を築いている。	消防署や地域の消防団、婦人防火クラブの方々の協力を得て避難訓練を実施している。70名以上の参加者を得ており、密に協力体制を構築している。また、緊急時に素早い避難行動をとることができるよう表札等を工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの尊厳を守ることが最重要であると考え、日常でも職員会議でも定期的に意識付けを行っている。利用者一人ひとりと向き合い、思いやりある支援ができています。	利用者一人ひとりの人格やプライバシーに配慮した言葉かけや対応になっているか、日ごろから職員間で確認しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の細かな事柄でも意思を表現し、確認する場面を設けたり、表現が難しい方には、押し付けることなく複数の選択肢を設けたり、反応をみて気持ちをくみ取るよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑の都合に合わせて無理強いせず、その日、その時の利用者のペースや体調、意向に沿った対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際に、好みの衣類をお聞きして、その人らしいおしゃれをしていただく。お化粧をする行事も取り入れ楽しんでもらえるよう取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いただいた地域の野菜を取り入れたり、行事食を企画したり、季節の移り変わりを感じられる食材やメニューを心がけている。職員と一緒に準備をし、食卓を囲み、片付けを行う、家庭的な空間で食事している。	季節の食材を活用して四季を感じてもらったり、誕生日には赤飯が用意したりして、食事が楽しいものとなるよう工夫している。また、利用者の身体状況に応じたテーブル等を配置している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食など、調理を個々の力に合わせて工夫し、提供した食事を9割以上召し上がっている。食事に加え、水分摂取量も記録し、不足しないよう管理している。嗜好に応じてお茶やコーヒー、イオン飲料を飲んでいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にうがいや義歯の洗浄を働きかけ、習慣づけている。出来ない方にはケアを行い口腔内の清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインを把握しトイレへの誘導を行っている。排泄の記録を確認し、時間をみながら定期的に声を掛けている。できるだけトイレで排泄していただくよう支援している。	なるべくトイレでの自立した排泄を支援している。利用者一人ひとりの状況に応じた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足に注意したり食事の内容に気をつけている。また定時に集まって歌を歌ったり、歩行訓練の時間を設けて体を動かすようにしている。排泄の確認や記録をつけて状態を把握している。必要に応じて医師にも相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調、希望に合わせて毎日入浴しているが、入浴の時間帯は苑の都合になっていることが多い。	入浴は、午後からの時間帯となっている。夏場は、毎日の入浴を支援し、冬場には入浴と清拭を交互に行っている。入浴を拒む方には、日時を変えるなどして利用者一人ひとりの希望に応じた支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行事や外出をするなどで疲れが見られる方は休息を取り入れている。夜寝付けない方には、日中の活動を促し、生活リズムを整えられるよう努めている。深刻な場合は医師や家族と相談し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当医の説明と調剤薬局からの説明書を職員が配薬、服薬時に確認できるようにファイルに保管しており、記録も行っている。変更になった場合も送り時に報告し管理を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯、食器洗い、草むしり、野菜の収穫等、自宅でしていた家事をお手伝いしてもらい、感謝の気持ちを伝え、やりがいを感じていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者や家族の要望に沿って、家族行事に自由に参加していただいたり、天候の良い時は周辺へ散歩に出かけたり、お買い物に同行していただいたりしている。	天候の良い日には、近隣の散歩や神社等へお参りに出かけた。中庭の草刈りをして気分転換を図っている。また、季節に応じたの外出の行事を企画して実施するなどし、利用者喜んでもらえるよう取り組んでいる。家族の協力を得て、外出に付きそってもらうこともある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族と相談し、個人ごとに金銭を預かり、外出した際に使ってもらったり、必要品を購入したりしている。用途の内容は家族に報告し合意の上取り扱っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の了解を得て、一緒に手紙や電話の内容を確認したり、希望があれば、手紙や電話の使用を支援している。判断が難しい方はご家族に報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には季節の掲示物を飾ったり、花や植物の鉢を置くと、興味を示してくれ好評である。また室温の差が出ないように調整したり、乾燥する時は加湿器を使用している。	共用空間は、明るく清潔感のある広々とした空間となっている。利用者が生けた季節の花や鉢植え等を飾っている。また、雛人形を飾るなどして季節感にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事後、ダイニングに置かれたソファで休憩されたり、窓辺で日向ぼっこをしながらお庭やお花を眺めたりできる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家財・家具を持ってきてもらい、使用していただく。ご家族と相談し安全に安心して過ごせるすまいづくりを行う。	居室は、畳とフローリングから選択することができる。利用者一人ひとりの使い慣れた好みの品物を持ち込んでもらっており、整理整頓にも配慮している。また、利用者の生けた花を飾るなどし、居心地よく過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自由に過ごしてもらえるよう建物内はバリアフリーになっている。また、トイレやお風呂等の共用部分や自室がわかりやすいよう、利用者の目の高さにあわせて装飾している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開苑時からずっと同じだった理念を、数年前職員間で話し合いの機会を持ち、新しく理念を作り上げている。苑内の目に付く場所に理念を掲げ、常に意識をしてケアに携わっていくようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花乃苑夏祭り、避難訓練の際に地域の方々大勢多数の参加があり、盛大に行う事が出来ている。また、地元の小学校児童・幼稚園児の慰問による来苑や表現会の招待等により深い交流関係が出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席いただいている民生委員や町役場の担当者の方々にケアの拠点として苑に出来ることはないか、役立つことはないかという事を常につたえている。又、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービスの実際と取り組み状況について報告を行っている。利用者家族の要望や民生委員の意見について、職員間で話し合いの場を持ち、常にサービス向上に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の担当者とは運営推進会議の時はもちろん相談事や認定更新等により深く関わっている。また様々な問題解決に向けて一緒に取り組んでいこうとしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送り時等で身体拘束について話題に触れ、共有意識を持つようになっている。玄関の施錠はせず、さりげなく声をかけたり一緒に歩いていく等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の記事を見かける度、反面教師として職員間で話し合いの機会を持ち、苑内での虐待が見過ごされることのないように注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用している方がおられるため、機会あるごとに職員への説明を行い、理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明については、ご家族の不安や疑問点を充分理解・納得されるように時間をとって丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や利用者が気軽に意見や不満を言えるような雰囲気作りをしている。運営推進会議においても利用者家族に積極的に意見を述べてもらい、サービスに反映させていくようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りの時間を多く取り、積極的な意見交換を行い、日頃からコミュニケーションを図るようにしている。職員の気づきやアイデアを充分運営に取り入れるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場で起きている状況や変化を知り、職員が安心して働ける環境を作っている。健康診断の実施など職員の心身の健康を保つための対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の確保・向上に向け、研修を受ける機会を作るようにしている。資格取得についても働きながら勉強できるように考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの相互研修を行うことによって、親睦を深めるとともに良いところを吸収し、サービスの質を向上させていくとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で、本人と向き合い、本人の思いや不安を受け止め把握するように努めている。信頼を得ることによって長い付き合いに繋げて行くようにしたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の思いは必ずしも一致するとは限らないが、今まで家族が体験してきた苦勞を理解し、困っていることやニーズが何なのか、話を十分聞くことによって関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前の段階で、なじみの関係が出来るように、本人の家に会いに行き短時間でも話をして過ごすような工夫をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩者であるという考えを職員の誰もが持つようにし、昔話を聞いたり昔ながらの生活の工夫を教えてもらったりと「共に過ごし、学び、支え合う」関係を作るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られる家族には常に利用者の生活状況をお話するようにしている。遠い家族にも毎月の新聞便りにて本人の様子をお知らせし、とても喜ばれている。家族の気持ちになって支援するように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔住んでいた地域の友人が時々遊びに来てくれている。馴染みの美容院を何度も訪れている人もいる。家族とともにお墓参りを欠かさずに行かれている人もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	すべての職員が利用者の仲の良さしを把握し、利用者同士の関係がうまくいくように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調が悪化し、退居された方の家族が再々苑に来られており、本人の現在の状況等を知らせてくれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が自分らしく暮らしていくためには、どのようにすればよいかということを念頭に置き、本人の思い、希望、意向を十分理解し把握しようと努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からももちろん、家族や親類から情報をいただき本人の生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できないことよりできることに注目し、より自信を持って暮らしていけるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で意見や希望を聞き介護計画に反映している。又、毎日職員間でケアのあり方について検討する時間を設け、より良い意見やアイデアを反映した介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、毎日の生活状況がすべて分かるように記入がされている。職員間で情報を共有しながら日々のケアと見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに応じたサービスを提供している。リハビリが必要な方は訪問リハビリを利用していただき、福祉用具レンタルも本人に必要なと思われるサービスを利用できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターや民生委員が参加されており、周辺情報や情報交換、協力関係を築いている。又、地域の小学校・幼稚園による定期的な訪問やボランティアの訪問が楽しみのひとつとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医の訪問が週2回以上あり、本人及び家族の安心を得ている。また、希望により症状に応じた病院への受診も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化の早期発見に努め、いち早く担当医に相談し適切な治療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際、病院関係者や家族と密な連絡を取り、回復状況など情報交換をしながら退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、早くから本人・家族とも話し合いを行い、苑で対応できる最大のケアについて説明をし担当医との協力体制も踏まえて、家族が安心出来るような支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作り、職員間に周知徹底を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。春の訓練は地域の方々の参加、協力を得ながら避難訓練を行っており、いざというときの協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの尊厳を守ることが最重要であると考え、日常でも職員会議でも定期的に意識付けを行っている。利用者一人ひとりと向き合い、思いやりある支援ができています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の細かな事柄でも意思を表現し、確認する場面を設けたり、表現が難しい方には、押し付けることなく複数の選択肢を設けたり、反応をみて気持ちをくみ取るよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑の都合に合わせて無理強いせず、その日、その時の利用者のペースや体調、意向に沿った対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際に、好みの衣類をお聞きして、その人らしいおしゃれをしていただく。お化粧をする行事も取り入れ楽しんでもらえるよう取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いただいた地域の野菜を取り入れたり、行事食を企画したり、季節の移り変わりを感じられる食材やメニューを心がけている。職員と一緒に準備をし、食卓を囲み、片づけを行う、家庭的な空間で食事している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食など、調理を個々の力に合わせて工夫し、提供した食事を9割以上召し上がっている。食事に加え、水分摂取量も記録し、不足しないよう管理している。嗜好に応じてお茶やコーヒー、イオン飲料を飲んでいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にうがいや義歯の洗浄を働きかけ、習慣づけている。出来ない方にはケアを行い口腔内の清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインを把握しトイレへの誘導を行っている。排泄の記録を確認し、時間をみながら定期的に声を掛けている。できるだけトイレで排泄していただくよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足に注意したり食事の内容に気をつけている。また定時に集まって歌を歌ったり、歩行訓練の時間を設けて体を動かすようにしている。排泄の確認や記録をつけて状態を把握している。必要に応じて医師にも相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調、希望に合わせて毎日入浴しているが、入浴の時間帯は苑の都合になっている事が多い。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行事や外出をするなどで疲れが見られる方は休息を取り入れている。夜寝付けない方には、日中の活動を促し、生活リズムを整えられるよう努めている。深刻な場合は医師や家族と相談し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当医の説明と調剤薬局からの説明書を職員が配薬、服薬時に確認できるようにファイルに保管しており、記録も行っている。変更になった場合も申送り時に報告し管理を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯、食器洗い、草むしり、野菜の収穫等、自宅でしていた家事をお手伝いしてもらい、感謝の気持ちを伝え、やりがいを感じていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者や家族の要望に沿って、家族行事に自由に参加していただいたり、天候の良い時は周辺へ散歩に出かけたり、お買い物に同行していただいたりしている。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族と相談し、個人ごとに金銭を預かり、外出した際に使ってもらったり、必要品を購入したりしている。用途の内容は家族に報告し合意の上取り扱っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の了解を得て、一緒に手紙や電話の内容を確認したり、希望があれば、手紙や電話の使用を支援している。判断が難しい方はご家族に報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には季節の掲示物を飾ったり、花や植物の鉢を置くと、興味を示してくれ好評である。また室温の差が出ないように調整したり、乾燥する時は加湿器を使用している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事後、ダイニングに置かれたソファで休憩されたり、窓辺で日向ぼっこをしながらお庭やお花を眺めたりできる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家財・家具を持ってきてもらい、使用していただく。ご家族と相談し安全に安心して過ごせるすまいづくりを行う。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自由に過ごしてもらえよう建物内はバリアフリーになっている。また、トイレ・お風呂等の共用部分や自室はわかりやすいよう、利用者の目の高さに合わせて目立つ装飾している。		